



京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センターE.FORUM

「『生きる』教育」プロジェクト

単元「みんなむかしは赤ちゃんだった—いのちのルーツをたどる」の概要

「『生きる』教育」とは

「『生きる』教育」とは、子どもたちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知識を身に付けるとともに、友だちとの真剣な話し合いを通じて自分と相手を大切にする価値観を形づくっていくプログラムです。子どもたちにとって一番身近であり、心の傷に直結しやすいテーマをも授業の舞台にのせ、社会問題として捉えなおすとともに、授業の力で子どもたち相互にエンパワメントを生み出し、個のレジリエンスへつなげることをめざしています。

単元「みんなむかしは赤ちゃんだった—いのちのルーツをたどる」について

単元「みんなむかしは赤ちゃんだった—いのちのルーツをたどる」(小学校低学年対象)では、自分にとって「ちょうどよい」距離を測るワークを通して、自分と他者との快適な距離に気づかせます。そこから、周囲の大人との「安心できる」距離を考えながら「パーソナル・スペース」について学びます。その後、距離がゼロである胎児と母親の関係に目を向け、赤ちゃんの成長過程とその成長には周囲によるケアが必要であると理解することを目指します。人間の起源である赤ちゃんが成長する過程を学び、生命の尊さを学ぶとともに自分自身の歴史のスタート時期の確認ができるという点でライフストーリーワークの視点からも重要な単元です。自身の過去・現在・未来を見つめる中学年対象(小学4年)の「10歳のハローワーク」や親の仕事の大変さを学ぶ、高学年対象(小学6年)の「家庭について考えよう」にもつながる、「『生きる』教育」の土台となる単元だと言えるでしょう。

※本サイトで紹介している教材・教具は、大阪市立田島南小学校の先生方の実践に基づきつつ、様々な学校で実践しやすい普及版として作成しております。

※実践の詳しい進め方については、小野太恵子・木村幹彦・塩見貴志編著『「『生きる』教育」——自己肯定感を育み、自己と相手を大切にする方法を学ぶ』(日本標準、2022年)、及び今垣清彦・小野太恵子・別所美佐子・田中梓編『「『生きる』教育」全学習指導案集——「安心・安全・愛情」を保障する9年間の教育プログラム』(日本標準、2024年)もご参照ください。



「自分にとって『ちょうどよい』距離を知ろう」(第1時)

単元の構成（授業2時間分で構成した例）

時数	授業のおおまかな内容
第1時	自分にとって「ちょうどよい」距離を測るワークを通して、自分と他者との快適な距離があることに気づかせます。そこから、周囲の大人との「安心できる」距離を考えながら「パーソナル・スペース」についての理解を深めます。
第2時	胎児と母親の場合は距離がゼロになることに注目し、胎児がお腹の中で大きくなっていく過程を学びます。そして、出生時から1歳までの赤ちゃんの成長過程を考えるワークをしながら、赤ちゃんが本能的に周囲に助けを求め、周囲がその助けに応じてケア（お世話）をしていることを学びます。



「胎児の成長過程（スライド）」（第2時）

単元の指導にあたって準備する教材・教具のリスト

使用する授業	種類	必要枚数など
第1時	1-1-1. 役割分担カード	各班に1セット
	1-1-2. 説明セット	板書用1セット
	1-1-3. 距離測定セット（リボン、油性ペン、はさみ）	各児童に1セット
	1-2. ものさし	板書用1セット
	1-3-1. 相手カード	板書用1セット 各班に1セット
	1-3-2. 「パーソナル・スペース」リボン	各班に1セット
	1-3-3. 距離カード	板書用1セット
第2時	0-1. 授業用スライド	
	2-1. 針で穴をあけた黒画用紙	各班に1枚
	2-2. ビーズ（直径1cm）	各班に1つ
	2-3. 胎児の成長過程（スライド）	板書用1セット
	2-4-1. 赤ちゃんの成長過程（短冊）	板書用1セット
	2-4-2. 赤ちゃん発達カード（12枚）	板書用1セット 各班に1セット
	2-4-3. 並べ替えワークシート	各班に1セット

※本教材・教具は、京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM が、SMBC 京大スタジオにおける共同事業「貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及」（通称：「『生きる』教育」プロジェクト）の一環として作成いたしました。作成は、下記の者が担当いたしました。

田野茜、飯塚喜久乃、多田理紗子、田原聡美、奥村旅人、山本尚毅、西岡加名恵

※本教材・教具に関するお問い合わせは下記までお願いします。

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM

「『生きる』教育」プロジェクト事務局

E-mail e-forum.ikiru@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp